

入学試験制度について

3年()組()番()

0. 大まかな日程

時 期	入 学 試 験 の 種 類
1月下旬	企業内学園(トヨタ、デンソーなど)
1月下旬	私立高等学校、専修学校高等課程推薦入試
2月上旬	私立高等学校・専修学校高等課程一般入試
2月下旬	公立高等学校(全日制)推薦入試
3月中旬	公立高等学校(全日制)Bグループ一般入試 公立高等学校(全日制)Aグループ一般入試
3月下旬	公立高等学校(定時制)入試

1. 私立高等学校・専修学校高等課程の入試について

学校ごとに内容は異なりますが、大まかな内容をまとめます。

(1) 推薦入試

- ・ 出願できる人は[]し、[]から推薦された人物。
「人物が優れている人」(後でまとめます)が推薦される
- ・ 私立高校、専修学校の生徒のおよそ[]割は推薦入試を受験して入った生徒である。

この割合は、学校によって違います。

- ・ []試験と[]試験が行われる。入学試験と[]学期の成績や[]などを書いた調査書を基に合否を判断する。

(2) 一般入試

- ・ 主に2月上旬の3日間で試験が行われるので、[]校受験することができる。
(昨年度の例を見てください。【専修学校では、別の日程で行われることもある。】)
- ・ 複数受験ができるため受験者が多く、また募集人員のほとんどが推薦入試で決まるので、**推薦入試よりも合格が[]なる。**
- ・ []試験の科目は学校によって異なる。[]試験を行う学校も多い。入学試験と[]学期の成績や学校生活の記録などを書いた調査書を基に合否を判断する。

2. 公立高等学校の入試について

県下の公立高等学校(全日制)は、推薦入学と複数受験が可能な入学検査による選抜を併用した[]といわれる入学試験制度である。

(1) 推薦入試

- ・ 出願できる人は、その学校(学科)を志望する意志が強く、[]が明白・適切で、[] []から推薦された人物のうち、次のア～イのいずれかに該当するもの(基準は高校ごとに決められており一部公表されている。)

ア 運動、文化、芸術、奉仕活動等の諸活動(総合的な学習の時間を含む)のいずれかに
 おいて優れた能力・適性・及び実績等を有する者。

イ 恵まれない環境を克服し、向学心に富み、生活態度が他の模範となる者

ウ 調査書の「学習の記録」が優秀である者。

3年生の学年末評定(45点満点)及び2年生の学年末評定(同)をもとに判定。

すべて、具体的に書類に記載できることが必要。

- ・ 募集人数は、普通科で定員の[]割程度、専門学科で定員の[]割程度である。
- ・ 試験は[]のみ。(ことばによる自己表現=[]を含む。)ただし、音楽科・デザイン科など一部の専門学科では特別検査(=実技試験)がある。これと学年末の成績や学校生活の記録などを書いた調査書、推薦の理由となる実績を書いた推薦書を基に合否を判断する。

(2) 一般入試

- ・ 志願者に対して、[]検査・[]を実施し、調査書(中学校から提出された資料)とあわせて合否判断を行う。音楽科・デザイン科など一部の専門学科では特別検査(=実技試験)がある。
- ・ 県内のすべての公立高校が、AグループとBグループに分けられている。普通科についてはさらに尾張1群、尾張2群、三河1群、三河2群に分かれている。(瀬戸から受検できる普通科高校は、尾張1群、尾張2群の学校のみ。)

比較的近い 学校を例に	普通科		専門学科
	尾張1群	尾張2群	
Aグループ 瀬戸市内 近隣郡市 名古屋	A 1 瀬戸北 名東	A 2 瀬戸 長久手 高蔵寺 明和	A S 春日井工業 東山工業、市立工芸(すべての学科) 緑丘商業、名東(英語)、愛知商業
Bグループ 瀬戸市内 近隣郡市 名古屋	B 1 瀬戸西 菊里 守山	B 2 旭野 日進 千種	B S 瀬戸窯業(すべての学科) 猿投農林(すべての学科) 名古屋商業

- ・ 志願者はA・Bグループのいずれか一方、または両方へ出願し、受検することができる。ただし、2校とも普通科のときは、同じ群の中の2校でなければならない。
- ・ 2校受検する場合は、出願時に第1志望校、第2志望校を決めておく。

確認!! 「2校受検する場合のルール」

Aグループから1校、Bグループから1校選ぶ。

第1志望が、**A ***の学校 第2志望は**B ***の学校

(試験日が同じ学校を2校は受検できません。)

2校とも普通科の場合、両方とも同じ群内の学校で選ぶ。

第1志望が、**B 1**の学校 第2志望は**A 1** 第1志望が、**A 2**の学校 第2志望は**B 2**

- ・ Aグループ、Bグループでそれぞれで受検する。2校志望する場合は、2回受検することになる。2校受検しても合格する学校は [] になる。

一般入試の校内順位は次のように決められます。(16年度入試から)

- (1) 一般入学受検者のうち、原則として調査書の評定合計(*1)と学力検査の結果(*2)が一般入学募集人員内にある者を「A」とし、これに属さない者を「B」とします。

*1 評定得点は調査書の9教科の評定合計を2倍にした数値(最高90点)です。

*2 学力検査は国語、数学、社会、理科、外国語(英語)の5教科で実施し、各教科20点の配点(合計100点)とします。

- (2) 校内順位の決定は「A」、「B」の順序で行い、「A」については今まで通り調査書の評定合計と学力検査の結果を同等とみて順位付けを行います。

- (3) 「B」については、次の、のいずれかの方式を選択したうえで、面接の結果や調査書の記載内容などとあわせて総合的な判定により順位付けを行います。

(評定得点) + (学力検査合計得点)	【90+100=190点満点】
{(評定得点) × 1.5} + (学力検査合計得点)	【90 × 1.5+100=235点満点】
(評定得点) + {(学力検査合計得点) × 1.5}	【90+ 100 × 1.5=240点満点】

瀬戸地区から通う生徒が多い学校では次のようになっています。

(評定得点と学力検査を同じ割合で判定する学校)
瀬戸高校、瀬戸西高校、瀬戸北高校、瀬戸窯業高校、旭野高校など
(評定得点を1.5倍して判定する学校)
守山高校など
(学力検査合計得点を1.5倍して判定する学校)
高蔵寺高校、明和高校、旭丘高校、千種高校など

練習問題1 次の学校を第1志望校として選んだ場合、第2志望校として可能性が考えられるのはどの学校か。前ページの表の中からすべて答えよ。

- (1) 長久手高校(普通科) **A 2**

[]

- (2) 瀬戸窯業高校(商業科) **B S**

[]

- (3) 菊里高校(普通科) **B 1**

[]

練習問題2

- (1) A君は、評定24・学力検査46点、B君は、評定27・学力検査42点であった。
 の学校では、A君とB君のどちらが上位であるか。
 の学校では、A君とB君のどちらが上位であるか。
 の学校では、A君とB君のどちらが上位であるか。

	評定	評定得点	学力検査			
A君	24	48	46	94	評定得点×1.5 = 72 だから 118	学力検査×1.5 = 69 だから 117
B君	27	_____	42	_____	評定得点×1.5 = _____ だから _____	学力検査×1.5 = _____ だから _____

- (2) 評定44・学力検査80点のCさんと、評定41・学力検査86点のDさんでも比較してみよう。

	評定	評定得点	学力検査			
Cさん	44	88	80	168	評定得点×1.5 = 132 だから 212	学力検査×1.5 = 120 だから 208
Dさん	41	_____	86	_____	評定得点×1.5 = _____ だから _____	学力検査×1.5 = _____ だから _____

評定だけ、学力検査だけで決まるものではありません。

3. 「人物が優れている人」とは

簡単に言えば、「**当たり前前**の**ことが当たり前**にできる人」です。特別に目立った活躍をした人ではありません。具体的な例を挙げます。

学校のなかのルールをまもることができる人。

- 例えば・ 遅刻(予鈴遅刻も含め)・早退が少ない人
 頭髪・服装のルールを常に意識することができる人

自分の役割を果たすことができる人 つまり、

- 例えば・ 掃除の時間に掃除をしている人
 給食準備の時間に給食準備をしている人
 係・委員会・日直の仕事に対して誠実に努力をする人

中学校は勉強をするところです。勉強するために進学を希望します。

だから、成績の良し悪しは別にしても

学校での授業と家庭での学習にこつこつとまじめに取り組んでいる人

「人物が優れている」ことの判断は、3年生の先生だけでなく1・2年生の先生や、教頭先生、教務主任、校務主任の先生の意見を聞いて、校長先生が判断します。推薦するかないかの判断は、このこと以外に各高等学校・専修学校などが要求する条件と照らし合わせて考えます。